

防災・防犯

東日本震災以後、防災対策や計画等をどう改正・改善したか

小野こういち議員(政和) ①東日本大震災を経験して地域防災計画をどう見直したか。

②防災行政無線が聞き取りにくい箇所への対応は。

市長 ①震災では計画で想定していなかった多くのことに対応し、今後に向けてさまざまな経験を待た。こうした経験や地域の防災計画の修正等を踏まえ、市の計画も見直していく。

②音響調査の結果をもとにスピーカーの増設や移設を行うなど聴取環境を向上させていく。

災害時に備えた歯科医療機関との連携について

石毛航太郎議員(フオ) ①災害時の初動体制に関し、歯科医師会と結んだ協定内容は。

②歯科医師会に移動系の防災行政無線を設置できないか。

市長 ①第一に歯科医療を要する傷病者に対する応急処置、第二に後方医療施設への転送の要

福社会館に設置されている防災行政無線



否及び転送順位の決定、第三に避難所等における転送困難な患者及び軽易な患者への歯科治療衛生指導、第四に検視・検案に際しての協力である。

②歯科医師会の事務局がある福祉会館内に既に設置しているため考えていない。

保護者が帰宅困難となった際の保育園等各施設の体制は十分か

常松大介議員(フオ) 保護者が3日間帰宅困難になった場合の児童・生徒、障害者、高齢者等への支援策は。

市長 保育園では数人分の食料と寝具を備え、保護者に引き渡すまで数日間保育が可能。学童クラブは備えが不十分なので近隣の保育園を利用したい。障害者へは通所先等で保護者が帰宅するまで支援する。高齢者へは市が事業者により一時保護を要請し、帰宅希望者には担当ケアマネジャーと相談して対応する。

教育長 学校では保護者等に引き渡すまで保護する。

女性の視点を防災に生かして安心の我がまちを築こう

津本裕子議員(公明) ①防災会議委員に女性団体等から登用できないか。

②総合防災訓練に避難所運営訓練を取り入れ、男女とも運営役員の体験ができる場をつくるべきと考えるがどうか。

市長 ①防災会議の委員は災害対策基本法で関係機関の長の充て職と決まっている部分もあるが、女性参画拡大の観点も含め

登用のあり方を検討していく。②昨年の訓練で取り入れたところ、自主防災組織の方を中心に男女とも多くの参加があったので今後も実施したい。

都から提供された1万本のペットボトルについて

橋本久雄議員(虹ひ) 都から備蓄用として配布された飲料水のペットボトルが元気がおがわ東体育館のステージに置いてある。誰でも触れることができ、安全上問題があるので早急に移動すべきでは。

市長 保存環境や輸送効率等の面で適切な場所を選定し、できるだけ早い時期に移動する予定である。

市のBCP強化で市全体に業務継続計画策定の輪を広げよう

虹川 浩議員(公明) ①災害発生時のトイレ対策は最重要課題なので、市本庁舎のトイレは雨水が使えるようにすべきでは。

②市内の企業等にBCPの策定を勧奨し、支援していくこと

落書きの心地よいまちを

宮寺賢一議員(政和) ①市内の落書き実犯の検挙状況は。

②罰則つきの(仮称)落書きを制定する考えはないか。

市長 ①平成21年度から23年度までの間には検挙はないと小平警察署から聞いている。

②現時点では考えていないが、都の落書き消去支援活動の活用や、警察等と連携した活動を研究していく。

公園・用水

用水路の現状について

川里春治議員(政和) ①水の流れていない用水路の活用方法は見直しされるのか。

②境界の確定はどの程度進んでいるか。

市長 ①具体的な変更予定はないが、将来、用水路活用計画の見直しをする場合にはその中で検討する。

②平成22年度末で総延長約50

は市の責任と考えるがどうか。

市長 ①改修には多額の費用を要し、貯水量も限られるので、より良い方策を検討したい。

②中小企業が作成したマニュアル類を参考にしてみようか、市としての普及のあり方については今後研究する。

※BCP(業務継続計画)とは災害時などに最優先で対応すべき災害対応業務と、通常業務の中で優先して継続するものの優先順位を整理した計画。

落書きの心地よいまちを

小川東第4公園の修繕工事について

堀浩治議員(政和) ①この公園はなぜ閉鎖されているのか。

河津桜のたけのこ公園への植樹等、多くの市民の協力を得て展開してきた。今後も近隣の学生による小川駅西口への手づくりハンギングバスケットの設置、小平商工会等を通じたアサガオの種の配布等を行う。

市長 バリアフリー化を初め、幼児や児童向け遊具、高齢者向け健康用具の設置など、高齢者と子どもたちがともに利用できる場の提供に努めたい。

秋山駅前周辺の安全・安心な生活を守るために市ができることを

幸田昌之議員(公明) ①秋山駅前周辺の江戸街道の歩道について、管理者である東村山市に改修をお願いしてもらったが、その後

の状況は。

②歩道橋は腐食がひどいが、改修に向けた考えは。

市長 ①まだ改修されていないので、早期に対応するよう引き続き要望していく。

②東村山市からは平成24年度以降の計画にのらなかったと聞いている。改修する場合は東村山市と小平市で経費を折半する

②どんな公園にしていきたいのか。市長 ①店舗の建設に伴い隣接する住宅地との緩衝帯として提供された経緯があり、近隣住民の意見や要望等から樹林的な公園とすることとして閉鎖したものと考えられる。



ボランティア向けの花植え講習会(こだいら花いっぱいプロジェクト)

少年高齢社会に向けた公園のコンセプトについて

坂井やすのり議員(みな) 少年高齢社会の進展や子どもの体力減少に対し、何を公園づくりのコンセプトとするか。

市長 バリアフリー化を初め、幼児や児童向け遊具、高齢者向け健康用具の設置など、高齢者と子どもたちがともに利用できる場の提供に努めたい。

少子高齢社会に向けた公園のコンセプトについて

小川東第4公園の修繕工事について

堀浩治議員(政和) ①この公園はなぜ閉鎖されているのか。

河津桜のたけのこ公園への植樹等、多くの市民の協力を得て展開してきた。今後も近隣の学生による小川駅西口への手づくりハンギングバスケットの設置、小平商工会等を通じたアサガオの種の配布等を行う。

市長 バリアフリー化を初め、幼児や児童向け遊具、高齢者向け健康用具の設置など、高齢者と子どもたちがともに利用できる場の提供に努めたい。

秋山駅前周辺の安全・安心な生活を守るために市ができることを

幸田昌之議員(公明) ①秋山駅前周辺の江戸街道の歩道について、管理者である東村山市に改修をお願いしてもらったが、その後

の状況は。

②歩道橋は腐食がひどいが、改修に向けた考えは。

市長 ①まだ改修されていないので、早期に対応するよう引き続き要望していく。

②東村山市からは平成24年度以降の計画にのらなかったと聞いている。改修する場合は東村山市と小平市で経費を折半する

②どんな公園にしていきたいのか。市長 ①店舗の建設に伴い隣接する住宅地との緩衝帯として提供された経緯があり、近隣住民の意見や要望等から樹林的な公園とすることとして閉鎖したものと考えられる。

地区で、自転車の通行環境の整備手法を検討するために警視庁が指定した。

②自転車を事故撲滅と自転車環境整備の先駆けに

虹川 浩議員(公明) ①レーンを設置した効果と課題は。

②自転車パトロールチームを編成し、迷惑駐車に警告等ができないか。

市長 ①設置後に実施した通行量調査では、通過した自転車全497台中、137台が自転車レーンを利用していた。レーンの正しい利用方法の周知や駐車車両対策等が課題と考えている。

②交通違反の取り締まりは交通管理者の権限である。今後も交通管理者等と連携して効果的な啓発を検討していく。

自転車対策と中学校部活動の自転車使用禁止について

坂井やすのり議員(みな) ①これまで自転車対策の効果は。

②部活動の際の自転車使用を禁止した理由は。

市長 ①講習会等で自転車の交通安全教育を行っており、参加者に好評で、一定の効果はある

こととなるため、連携を密にしていきたい。

自転車の交通安全対策策を

滝口幸一議員(フオ) ①あか

しあ通りの自転車レーンは運用開始後1か月たつが、利用者から声は寄せられているか。

②自転車通行環境のエリア整備計画の中で、モデル地区はどのような位置づけか。

市長 ①設置に関する意見等をもたらした。今後は利用方法等の普及啓発を図り、アンケートの実施等で効果を検証していく。

②駅周辺の自転車が集中する



ものと考ええる。教育長 ①自転車の乗り方について意識する児童・生徒やヘルメットの着用がふえたようだと報告が学校からある。②部活動での自転車利用は状況により認めていたが、事故が続いたことから、生徒の安全を第一に考え、原則禁止を徹底することとした。

市独自の自転車政策で安全利用を進めよう

立花隆一議員(公明) ①子どもや高齢者等に自転車免許を配布しては。

②自転車事故防止の取り組みを促すため(仮称)自転車の安全利用条例の制定を検討しては。

市長 ①子どもも自転車実技教室を年2回開催し、参加した児童等に自転車運転免許証を配布している。

②法改正等により自転車の安全利用に関する規定が設けられたので、一義的にはこれらの周知が急務と考える。条例については情報収集に努めていく。

道路の今後の整備方針について

小林洋子議員(フオ) 一貫性のあるまちづくりが必要と考えるが、市の道路整備方針は。

市長 道路は人の移動や物資の輸送に欠かせない公共施設なので、歩行者、自転車、自動車等が安全で快適に通行できる道路交通ネットワークを整備することが重要である。市道の路面状況の把握とともに市民からの要望を重要な情報提供と受け止め、人に優しい安全な道路環境を維持することが大切である。